

## 4355 ロングライフホールディング

遠藤 正一 (エンドウ マサカズ)

ロングライフホールディング株式会社代表取締役社長

2010年11月、中国青島において、新華錦との合併により  
業界初の老人ホームをオープン

### ◆2010年10月期決算ハイライト

常務取締役管理本部長 瀧村明泰

連結売上高は80億88百万円(前期比0.7%減)、営業利益は3億97百万円(同3.4%増)、経常利益は3億68百万円(同7.6%増)、当期純利益は1億58百万円(同43.5%増)となった。売上高は前期比ほぼ横ばいで推移したが、最終利益は大幅に増加している。

連結損益状況については、売上原価63億19百万円(前期比43百万円減)、販管費13億71百万円(同30百万円減)、この合計が73百万円となり、その削減効果により増益を確保している。利益については期首の計画どおりに推移した。

四半期ごとの比較をすると、第4四半期(8~10月)においては、ホームの入居率が向上したこと、および在宅介護の売上増が増益に貢献している。

連結貸借対照表については、現金及び預金が前期末に比べ5億31百万円と大きく増加した。また預け金(入居一時金の保全のための信託)が1億80百万円増加している。負債の部では借入金が増加し、長短合わせて約2億円増加した。入居一時金の収入の増加により前受金が1億50百万円ほど増加している。

キャッシュ・フローについては、営業活動によるキャッシュ・フローは4億17百万円の収入であった。投資活動によるキャッシュ・フローは86百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローは1億80百万円の収入となり、現金及び現金同等物の期末残高は前期比5億12百万円増の13億70百万円となった。

2011年10月期通期連結業績見通しは、売上高90億円(前期比11.3%増)、営業利益4億50百万円(同13.1%増)、経常利益4億円(同8.6%増)、当期純利益2億円(同26.1%増)を計画している。

期末配当金については、前期は1株当たり300円に対して当期は500円とする。2011年10月期は前期に引き続き増配(前期比40%増)の1株当たり700円を予定している。

### ◆2010年10月期総括

代表取締役社長 遠藤正一

ホーム介護事業は、上期の新規入居が低迷したものの、新料金プラン「アーバンシリーズ」の導入により、後半は新規入居が順調に推移した。

在宅介護事業は旧コムスンから買収して4年目に入ったので、ケアセンター・訪問歯科の拠点を増設し、収益力の向上により最終利益を確保することができた。

給食事業は、パストラール(兵庫県住宅供給公社から受託運営するホーム)における売上高が増加した。

当期の主なトピックスとして、第1点は、11月に臨床検査・調剤薬局の(株)ファルコSDホールディングスと業務提携をした。介護施設と調剤薬局の併設店舗を展開し、店舗設置のコスト削減を図るとともに、調剤薬局の顧客に有料老人ホームや在宅介護サービスを紹介するなど、営業面でも協力することを目的としている。

第2点は、2010年11月、中国青島において中国の「新華錦(シンファージン)グループ」と合併会社を設立した。青島市に老人ホーム168室をオープンし、2011年10月、運営開始を予定している。

新華錦は国際貿易のほか金融投資、不動産開発事業などを展開し、子会社132社を所有している。売上高2,500億円で、中国企業トップ500社の中で213位である。

中国は60歳以上を高齢者としているが、一人っ子政策によって日本より速いスピードで高齢化が進み、上海市内では60歳以上の高齢者が20%に達している。

これまで日本は欧米から介護を学んできたが、業界初の中国進出により海外へ高品質なサービスを輸出することになる。今後急速な高齢化が予測されている中国において、当社が培ってきたサービスとブランドを広く普及させていく。当社は不動産を持つことはせず、資本金300万ドルの34%を出資した。

## ◆当社グループ体制について

当社グループは、ロングライフホールディング(株)という純粋持株会社のもとに、ホーム介護事業を運営する日本ロングライフ(株)、在宅介護事業のエルケア(株)、フード事業のロングライフダイニング(株)、そして新たに国際投資事業を行うロングライフ国際事業投資(株)が加わり、この四つから成り立っている。

ホーム介護事業の入居率(月次推移)を見ると、入居率は安定的に推移し、当期末の入居率は71.8%になった。2010年10月期の新規開設はなかったが、2011年10月期期末には新規ホームをオープンする予定である。

在宅介護事業のエルケア(株)は、次の5拠点を新規開設した。2010年3月にエルケア芦屋訪問歯科サポートセンター、4月にエルケア住吉訪問歯科サポートセンターの2拠点を、7月にはエルケア朝潮橋ケアセンター、エルケアなんばケアセンター、エルケア北野田ケアセンターの3拠点を開設した。

2010年10月末の施設概要は、ホーム介護事業については、有料老人ホーム14、グループホーム4、運営受託ホーム2、合計20施設となっている。いずれも新設、統合・廃止はなかった。

在宅介護については、訪問介護40、訪問入浴5、訪問看護2、デイサービス8、小規模多機能4、居宅支援27、福祉用具2、訪問歯科8、合計96拠点であったが、新設が訪問介護で3、訪問歯科で2、統合・廃止が訪問看護で1、居宅支援で2あったので、合計98拠点となっている。

## ◆経営戦略・事業展開

新規開設ホームについては、低入居率の施設が数カ所あり、それが全体の入居率を下げているという問題があるが、顧客のいるところに新規開設していこうという考えで、ロングライフ苦楽園芦屋別邸(35室)を2011年秋にオープンする予定である。

ロングライフ京都嵐山(60室)は2011年春に着工する。京都で初めての事業展開であるが、ここは全国区でお客様をお呼びできると考えている。苦楽園芦屋別邸は、芦屋および甲子園口にある有料老人ホームが、満杯になっているのでお客様を振り分けるということが可能である。この2カ所により新設ホームの入居率を上げる時間が短縮できるのではないかと考えている。

現在、ホーム介護事業の居室総数723に対して入居室数519、入居率71.8%であるが、2011年10月期には入居室数551、入居率76%を目指している。

新しい事業展開として、エルケアでは、デイサービスとフィットネスを組み合わせた新店舗「デイサービス塚口」を2010年11月にオープンした。2階がデイサービスで、1階に9台のマシンを設置し、B-LINEというお手軽フィットネスクラブになっている。地域の方々に貢献しながら、将来のケアサービスのお客様に向けたPRを実践しており、エルケア独自の付加価値を創造していく。

## ◆介護保険に依存しない多様なサービスの展開

日本は820兆円の赤字国債を発行し、国民1人当たり700万円の借金を背負っている。このまま日本国内で介護の仕事が続けられるのかということを私は当社創業以来心配している。820兆円のうちの6~7割は社会保障費だといわれている。高齢者は増えていくが、その中で今のような形が維持できるのかどうか。

また、この10年間で国政選挙が2年に1回行われており、今後10年間、日本の政治は安定しないだろう。政治や制度に振り回されていたのでは会社の将来は非常に不安定である。日本国内においては介護保険依存率をどんどん下げていくと同時に、国際企業として飛躍していく。まずは中国で合弁会社を設立したが、次はバリ島、そしてハワイで合弁会社を設立し、当社のノウハウとブランドを広げていくことも考えていく。

同業他社との差別化も必要である。ただ単に介護をする、ただ単に食事と寝るところとお風呂を用意するという単純なことではなく、人生がどんどん楽しくなるものを提供する。究極の介護サービスとは何かというと、亡くなられる瞬間、自分は生きていて良かったと思われるサービスを提供することであると考え、おしんぼ倶楽部、たび倶楽部、観劇倶楽部、MEN'S倶楽部などさまざまなメニューを用意している。

「ロングライフ学会」を年に2回開催している。有料老人ホーム、グループホーム、在宅介護サービスにおいてサービスを提供する中で社員が出合った感動事例や成功事例を発表し、事例を研究することでケアのスキルアップにつなげるという催しである。

学会で発表された事例を20ほど集めて、日本ロングライフ(株)社長の桜井が書いたのが、皆様のお手元にある『船上のダンスパーティー』という本である。当社の有料老人ホームに入居された方がダンスを始める。97歳になって車いすに乗っていたが、スタッフが付いて韓国への船旅に参加した。ダンスパーティーがあるというのでおめかしをして、職員が会場にお連れした。全く知らない白髪の紳士が来られて、「踊っていただけませんか」と声を掛けた。スタッフが「無理です」と言いかけた瞬間、車いすの方がお立ちになってダンスを踊られた。その場面に桜井が出くわした。われわれが介護の世界で経験した中で、そこまで意欲や能力が残っていたのかと驚かされることがたくさんある。そういうことをまとめた本なので、お暇な時にお読みいただければと思う。

## ◆今後の戦略および経営方針

第1点は、ホーム入居率の向上による利益の確保である。

第2点は、在宅介護事業(エルケア)の事業所拡大による増収である。今回、兵庫県にも事業所ができた。次は京都を考えており、在宅介護は兵庫県、京都府、大阪府、奈良県など、近畿地方は和歌山県を除いてすべてに展開することになる。在宅介護も近畿圏にしっかりと根を張っていこうということである。

第3点は、優秀な人材の確保と社員育成である。

以上により、5カ年計画「中期ビジョン2014」では、売上高180億円・経常利益16億円に向けて推進しているところである。

## ◆質疑応答◆

5カ年計画の売上高180億円のうち海外は何割ぐらいと考えておられるのか。

新華錦は運営の34%の利益分配だけなので現状では年間約30百万円程度の利益を見込んでいる。中国等はこれからなので、「中期ビジョン2014」には海外のことは入れていない。

新料金プランの導入により後半の新規入居が順調に推移したという記述があるが、新料金プランについて具体的に教えてほしい。

従前は最初に入居一時金1,200万円のみをいただくCプランしかなかったが、今回、入居時の費用を抑えたプランA・Bを追加した。プランAは入居一時金360万円と月額家賃13万円、プランBは入居一時金600万円と月

額家賃 8 万円が必要である。10 年間の費用負担の比較ではプラン A は 1,920 万円、プラン B は 1,560 万円、プラン C は 1,200 万円と月額家賃がないので最も低額となる。アーバンシリーズ料金体系の導入が 7 月だったので、これをきっかけとして 7～10 月は入居件数が上昇している。

**入居率が低迷しているホームにアーバンシリーズを優先して導入したのか。**

大阪市内にある長居公園、うつぼ公園、芦屋、甲子園口など小さな居室を中心に導入しやすいところから試験的に導入している。好評をいただいているので、ほかに広げていくことも検討しているが、関西圏では現在この 4 施設だけである。

(平成 22 年 12 月 17 日・東京)